神学は語る 《第5回配本》

神学テーマをとりあげ、 簡潔な見取り図を提供する シリーズ最新刊



ヴェロニカ・コペルスキ 著

マドンナ大学、聖キュリロス&メトディオス神学校、バリー大学で教鞭を執り、新約聖書学や旧約知恵文学 の研究における業績のほか、詩人としての作品も多数。1970年に第二バチカン公会議が示す価値観や原理 を体現するために結成されたSisters For Christian Communityに属するシスターでもある。

さわむらまさ し

1967年青森県生まれ。日本基督教団春日東教会主任担任教師、エリザベト 澤村雅史 訳 音楽大学非常勤講師を経て、現在、広島YMCAチャプレン、広島女学院大 学宗教委員長 (共通教育部門教授)。

信仰義認を唱えたパウロは、「律法」に対して実際のと ころどのような姿勢をとっていたのか。「律法の誤り」 とは何か。ルター的「福音か律法か」の対立図式は正し いのか。20世紀終盤に大きく転換した「パウロの律法観」 理解、その今なお続く議論の潮流を概観できる1冊。

A5判・並製・190頁・定価3.740円(本体3.400円+税) ISBN978-4-8184-1012-1 C3016

- 第1章 律法は高慢という姿勢を助長する 第2章 律法はキリストではない
- 第3章 律法は限定的である

第4章 ルター/ブルトマンの「復権」? 第5章 広がり行く展望

第6章 新しい「中心」?

シリーズ

『聖書とキリスト教倫理』定価2,640円 (本体2,400円+税) 『新約聖書と黙示』定価2,420円 (本体2,200円+税) 『たとえ話』定価2,860円(本体2,600円+税)『パウロの教会はどう理解されたか』定価2,640円(本体2,400円+税)